

# 「これで伝わるプレゼン講座」報告書

文責：D-plus2 回生 荻野 一樹

## 1. 経緯

D-plus の 2 回生となって半年が経ち、何か講座を担当しようと考え始めておりました。そんな折、3 回生の田中 葵さんがプレゼンテーション講座を立ち上げるという提案をされ、私もその提案に便乗するという形になりました。もちろん、ただ便乗したというわけではなく、私はプレゼンテーションを普段行っている際に高い評価を頂くことが多く、「自分の得意分野を生かせるのではないか」と思ったことが大きな原動力となりました。

### ①ターゲット：ゼミナール大会を控えた学生

理由：プレゼンテーションの技術が活かされる直近のイベントがゼミナール大会であったため。

### ②内容：すぐに効果が出る技術に内容をしぼり、「伝える技術」と「見やすいスライド」という二つの内容に分けた。

理由：ゼミナール大会直前ということもあり、話を聞けばすぐに効果が出るような技術に内容を絞った。また、プレゼンテーションの技術は複合的なものであり、分ける必要があると考え、担当講師が二人であったので二つに分けた。

プレゼンテーションは大学に入ってから行う機会が格段に増えるものの、その方法については、「情報リテラシー」という授業で基本を教わるだけで、あまり人を引き付けるようなテクニックなどは教わることはありません。そこで、受講して頂いた方にワンランク上のプレゼンテーションを行えるようになってもらえるための内容を考えました。

## 2. 準備

後期が始まってから企画を始めましたが、ゼミナール大会の発表に間に合わせるようにすることを考えると、11月12.13.14日に開催という日程になりました。やや遅いスタートであったと言わざるを得ません。企画名は、ゼミナール大会に向けているという企画の意図が伝わるように「ゼミ大直前！！これで伝わるプレゼン講座」としました。

内容は以下の通りです。

### ① 日時：11月12日・11月13日・11月14日の昼休み

### ② 場所：Creative Lab.4

スライドショーを行うことができ、かつ自然光で明るさを確保でき、机の配置も比較的自由に行えることなどが理由として挙げられます。

広報物についてはマネジメントチームの中でクリエイティブスキルを持ち合わせているスタッフが制作し、マニュアルは田中・荻野が制作することで作業を分担しました。

#### 広報物

- ① チラシ（情報リテラシーⅡの授業で一回生に配布）・ポスター（以学館各所に掲示）  
・チラシ・ポスター担当：兵頭 惣介（現代社会 4 回生）

上記の他に SNS も活用して情報発信を行った。

- ・Web サイト【D-portal】 ・デジタル工房 Facebook・Twitter にて随時情報の更新

#### マニュアル

- ・第一部「伝えるテクニック編」担当：荻野一樹(現代社会 2 回生)  
・第二部「伝えるスライドとパワーポイント編」担当：田中葵(メディア社会 3 回生)

### 3. 本番

「伝えるテクニック編」を荻野、「伝えるスライドとパワーポイント編」を田中が担当しました。当日、受講生はほぼ時間通りに集まってくれて、受講中は、終始メモを取りながら全員が真剣に耳を傾けてくれていました。こちらからの問いかけに対しても積極的に答えてくれる方が多かったように思います。

受講生は 3 日合計で 20 人集まりました。

### 4. アンケート結果

講座終了後のアンケートには「受けて良かった」「もっと早くに受けたかった」「資料がわかりやすい」「ゼミナール大会への抱負」など、肯定的な意見がある一方で、「話すスピード」や「2 講師間での若干の内容の食い違い」、「資料の体裁」などについて、改善を求める声も見受けられた。また、「もっとこういったことを教えてほしかった」という内容に関する要求もあった。準備が不十分で発表に慣れることができていなかったことや、受講者のニーズに関する分析が甘かったことが原因として考えられる。データを残し、次回以降のプレゼン講座に反映したい。

### 5. 所感

マニュアルは二部構成でした。マニュアルの内容も含め、講座の内容を作っていく上で困難であったのは「自らの実感をいかにテクニックとして落とし込むか」という部分です。「そもそも講座で何を教えればいいのか」という部分からのスタートになりましたし、話す内容を決定するまでにもかなりの時間を費やしました。前例がないということが困難でした。自分自身プレゼンについて高い評価を得ることがあったとは言え、「感覚に頼って

プレゼンを今まで行ってきたため、「テクニックとして人に伝える」ということを考えた時にとっても苦勞しました。準備期間の多くをインターネットでプレゼンテーションのコツを調べてきて、自分の実感と照らし合わせるという作業に費やしました。また、すぐに実践していけるようなテクニックだけに、また 15 分という自分の持ち時間に収まるように「重要さ」「手軽さ」といった様々な面から技術に優先順位をつけて絞っていかねばならず、長い時間をかけて吟味しました。

以上